

氏名	松 本 光 仁		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 865 号		
学位授与の日付	昭和52年 6 月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)		
学 位 論 文 題 目	酵素抗体法による腎疾患の研究		
論 文 審 査 委 員	教授 木村 郁郎	教授 長島 秀夫	教授 妹尾 左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

SLE腎症、膜性腎症、慢性糸球体腎炎等の腎糸球体に電顕上正常ではみられない電子密度の高い沈着物 (deposit) が認められ、腎障害発症の原因と考えられているが、その本態は推定の域を出ていない。これを明らかにするために、Nakane の開発した horseradish peroxidase による酵素抗体法により、上記腎疾患患者の腎生検材料を観察した。

先ず方法の検討を行ったところ peroxidase 標識には fluorodinitrobenzene 法が簡単で最も効率がよく、電顕的酵素抗体法にはスライドグラス法が最も反応が良好であったのでこれらを用いた。

次に電顕的酵素抗体法の前段階として peroxidase 標識抗ヒト免疫グロブリン血清等を用いて組織学的酵素抗体法を試みたところ、反応性は極めてよく、かつ特異的であって、同時に行った蛍光抗体法の所見とよく一致した。組織学的酵素抗体法では蛍光抗体法と同様抗免疫グロブリン血清の染色パターンは linear, granular, mesangial, その他の 4 型に分類でき、両者のパターンの型、染色強度の一致率は、96.3 % とよく相関した。

SLE腎症 2 例と膜性腎症 2 例の腎材料を標識抗ヒト免疫グロブリン (IgG) を用いて電顕的酵素抗体法で観察すると deposit に一致して特異的に微細顆粒状の反応物質が認められ、deposit 内には免疫グロブリンが存在することを証明した。

以上の実験により SLE腎症等で電顕上認められる deposit は免疫グロブリンを含むことが明らかとなり、deposit は抗原抗体複合物であろうことが推定された。また酵素抗体法と蛍光抗体法の所見は極めてよく一致し蛍光抗体法で染色される部位は電顕上の deposit であることが明らかとなった。

論文審査の結果の要旨

本研究は酵素抗体法を用いた腎疾患の研究であるが、従来十分に実施されていなかった電顕的酵素抗体法による検討を行ない、蛍光抗体法との比較などから腎生検時の検索に対して新しい方法としての重要な知見を得、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。